

<b>会議名</b>	令和5年度第2回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会
<b>開催日時</b>	令和6年1月16日(火)午後2時00分～3時50分
<b>開催場所</b>	板橋区立グリーンホール 1階ホール
<b>出席者</b>	<p><b>[委員 13名] (敬称略)</b></p> <p>八藤後会長、水村会長代理、桑波田委員、佐々木宗雅委員、越智委員、山口委員、堀井委員、與芝委員、竹澤委員、村山委員、神山委員、増淵委員、佐々木敦司委員</p> <p>(欠席4名)</p> <p><b>[事務局 6名]</b></p> <p>(福祉部) 小田障がい政策課長、ユニバーサルデザイン推進係3名、管理係1名</p> <p><b>[オブザーバー 1名]</b></p> <p>(都市整備部) 千葉都市計画課長</p>
<b>会議の公開 (傍聴)</b>	公開 (傍聴できる)
<b>傍聴者数</b>	2名
<b>次第</b>	<p><b>1 開 会</b></p> <p><b>2 議 題</b></p> <p>○令和5年度ユニバーサルデザイン展の実施について</p> <p>○区民に対するユニバーサルデザインの普及啓発について</p> <p><b>3 その他</b></p> <p><b>4 閉 会</b></p>
<b>配付資料</b>	<p>[資料1] 令和5年度ユニバーサルデザイン展の実施について</p> <p>[資料2] 区民に対するユニバーサルデザインの普及啓発について</p> <p>[参考資料1] 第11期ユニバーサルデザイン推進協議会 名簿</p> <p>[参考資料2] 東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進条例</p> <p>[参考資料3] 東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会規則</p>
<b>審議状況</b>	<p><b>1 開 会</b></p> <p>〈事務局〉</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第2回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会を開会いたします。私は事務局を務めます、障</p>

がい政策課長、小田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。  
本日は、お寒い中お越しいただきありがとうございます。

まず初めに、新型コロナウイルス感染症に関する本協議会の運営についてお知らせいたします。前回と同様、区の職員のマスクの着脱につきましては、原則、執務中はマスクを外すことを推奨しつつも、個人の判断に委ねるということになっております。委員の皆様におかれましては、個人の主体的なご判断の下、マスクの着脱を行っていただければと思います。また、マスクを外しても皆様が安心して過ごせるよう、会場内の換気や手指消毒用のアルコール設置など、基本的な感染症対策を引続き実施してまいりますので、よろしくお願いいたします。また、体調の優れない方がいらっしゃいましたら、お近くの係員までお声かけいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより会議に入らせていただきます。会議に先立ちまして、会長から、一言、ご挨拶をお願いいたします。

〈会長〉

皆様、こんにちは。会長を仰せつかっております八藤後でございます。今日もお運びいただきまして、ありがとうございました。今日の議題を見てみますと、特に審議事項というのはないですが、区は様々な事業をやっていただいておりますので、その説明を受けていただきます。これに関し、皆さん方の忌憚のないご意見を言っていただければと思います。

本日もよろしくお願いいたします。

〈事務局〉

ありがとうございました。本日、坂東委員、渡辺委員からご欠席とのご連絡をいただいております。また、1名、少し遅れてくるというご連絡もいただいております。現在、12名のご出席をいただいておりますので、東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会規則第3条第2項の規定により本協議会が成立しておりますことをご報告させていただきます。

それでは、議題に入る前に資料の確認をいたします。次第、資料1「令和5年度ユニバーサルデザイン展の実施について」、資料2「区民に対するユニバーサルデザインの普及啓発について」、参考資料1「第11期ユニバーサルデザイン推進協議会名簿」、参考資料2「東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進条例」、参考資料3「東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会規則」、本日の資料は以上となります。過不足等がございましたら、事務局の方にお申しつけください。

ここからの進行は会長にお願いしたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

〈会長〉

はい。分かりました。まず、本日の会議の傍聴について事務局からご説明をお願いいたします。

〈事務局〉

本日は2名の方が傍聴を希望されておりますので、よろしく願いいたします。また、議事録作成のため、審議内容を録音いたしますので、ご了承のほどお願いいたします。

なお、本協議会の記録やホームページでの公開などに活用するため、会場全体が収まる構図で写真を撮らせていただきたいと思います。委員の皆様のお顔が分からないよう配慮いたしますので、ご了承ください。

〈会長〉

ありがとうございました。

それでは、議題に入る前に出席者の皆様へご協力いただきたいことが2点ございます。まず、発言をする際は、手話通訳などを必要としている方もいらっしゃいますので、なるべくゆっくりと、分かりやすい言葉でご発言いただくようお願いいたします。また、ご発言の前にはお名前を名乗っていただきますようお願いいたします。

## 2 議 題

### ○令和5年度ユニバーサルデザイン展の実施について

〈会長〉

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。議題の1つ目、「ユニバーサルデザイン展の実施について」を、事務局からご説明願います。

〈事務局〉

(資料1「ユニバーサルデザイン展の実施について」について説明)

〈会長〉

どうもありがとうございました。

ただいまのご説明について、ご意見やご質問などありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

〈委員〉

2点あります。1点は質問で、もう1つが希望です。

1点目はスライド8ですが、障がいのある方が白い杖を掲げているというのは何を表しているか、またこの質問の回答率を知りたいです。といいますのは、これは、多分、視覚障がいのある方が困ったときに役立つSOSの表現だと思いますが、視覚障がいのある方の中でも世の中でどれだけ知っていただいているのかなということはずごく関心が高いことですので、この回答率を知って今後の活動に生かしていきたいなということです。

2点目は希望で、スライド14ですが、今後の展示会に関して、全盲の

視覚障がいのある方向けのデザインや体験ということを取り入れてほしいというのがありますが、ぜひこれは入れてほしい、この中で具体的に体験の動画を入れてもらうといいなと思います。どうのことかと申しますと、例えばまちの中を視覚障がいのある方が歩いていて、音声のない信号の前に行ったときに近づいていただいて、「今、赤ですよ」「青ですよ」とか言っていただくような、要するに視覚障がいのある方に対する合理的配慮の実例となるような動画を入れていただいて、現場で流していただければと思います。最近は動画を作ってもそんなにコストはかかっていないので、出演者というか、協力する者さえいれば可能かなと思っております。もし区役所から声をかけられれば、ぜひ協力して、いろんな場面で視覚障がいのある方がこういうことをしてもらおうと助かりますよという動画の制作に協力したいと思いますので、ぜひご検討をお願いしたいと思っております。

以上、2点、よろしくお願いいたします。

〈会長〉

ありがとうございました。事務局の方からコメントいただきたいと思っております。

〈事務局〉

ご質問ありがとうございます。2点いただきました。

まず1点目の回答率ですが、今回クイズとして集計しているわけではなく、パネルの展示として出していただけとなりますので、何人の方がどちらに答えたかという集計は取っておりません。他でやる機会がありましたら、回答率を取ることに考えてみたいと思います。

体験の動画に関しては、本当にありがとうございます。いただいたご意見を参考にさせていただき、来年度のユニバーサル展で動画も含めて検討したいと思っております。よろしくお願いいたします。

〈委員〉

現場でお聞きしたデータはないということで残念に思っておりますが、今ご説明いただいたことを実施していただいて、今後もこのようなアンケートを取ることがありましたら、後日、報告していただければという形でよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

〈会長〉

ホームページでもクイズとして表示されておりましたので、そこで実際に答えていただくといいのではないかなというようにも付け加えておきたいと思っております。

それから、クイズの白杖を持っている人の頭から汗が出ていますので、何となくこれはS O Sかなと気がついてしまいますが、それはそれでいいのではないかなと思います。

他に、何かございますか。

〈委員〉

最近は、ユニバーサルデザインがハードだけではなく、ソフトと両立するという話があると思います。その中でも、ソフト面で大切なのが理解、啓発とっておりますので、そのような取組は非常に大切だと思っております。内容も分かりやすくよかったと思っておりますけれども、ただ、この資料を見ますと、逆に、分かりやすい、見て分かる、それに偏っているような感じに見受けられますね。

本当に周りに分かってもらえないというのは、見た目では分からないというところから発することが多いと思います。聴覚障がいのある方、知的障がいのある方、それから内部障がいのある方については、ほとんど資料の方に、ユニバーサルデザイン展に載っていなかったのかなと思います。見た目で見えない人、普段では気づいてもらえないような障がいのある方のことをもっと取り上げるべきではないかと感じました。

例えば、スライド10にあるUDスポットマップですが、聴覚障がいの関係はほとんど載っておりません。実は、エレベーターには聴覚障がいのある方向けのボタンがあることはご存じでしょうか。ほとんどの方は、このボタンを見ても何のことだか分からないのではないかと思います。万一、エレベーターに閉じ込められたりしたときに、外部とのコミュニケーションを聴覚障がいのある方は取ることができません。聞こえない者がいるということを伝えるためのボタンですが、東京都も含めて職員もこのボタンが何かということを知らない方が実は多いです。その辺りもきちんと伝えられるように、ユニバーサルデザイン展で紹介していただければありがたいと思います。

また、後でお話があるかと思いますが、資料2のスライド7でも少し気になることがあります。バリアフリーとユニバーサルデザインの比較について書いてあります。バリアフリーがハード面、ユニバーサルデザインがハードとソフトの両面と記載されております。今は、バリアフリーはハードとソフト、両面が必要という考え方に変わってきております。例えばハード面だけでは解決できない場合には、ソフト面で対応するという考え方になっております。バリアフリーもソフト面が大事だという考え方に変わっておりますので、資料2のこのページの記載については、ちょっと気になります。ユニバーサルデザイン展の方にも影響があるのではないかと思ったので、ソフト面のこの問題もユニバーサルデザイン展に入れてもらえればと思ひまして、今、意見を申し上げました。

〈会長〉

ありがとうございました。引続き手が挙がっております。お願いします。

〈委員〉

私が少し気になったのが、スライド10のUDスポットマップについてです。区役所のレストランで感動した例がありまして、1つ、2つのテーブルに、初めから椅子がないのです。よって、車いす利用者が入っても、その席が空いていればそのままぱっと着席できて利用できます。こういう考え方の施設があると、一度利用するとまた行きたくなくなります。レストランなどに行ったときに、店員さんが椅子を寄せてくれる。これも確かにサービスとしてはいいのですが、初めからそのような配慮がされていると大変心地よく、気兼ねなく利用できます。

何年か前に、豊洲の方のある施設に行ったときもイートインスペースで、テーブルに5つ、6つの椅子がないスペースがありました。これにも私、すごくはっとさせられました。ユニバーサルデザインって、こういう考え方ではないかなと。

人の手も確かに温かいですが、初めからどんな人も気兼ねなく、例えば人をお願いしなくても快適に使える、これがもともとの基本のユニバーサルデザインだと思います。もしまたこのスポットマップがあったら、そういうところもぜひ取り上げていただきたいなと、こういう考え方もあるのだなということ世の中の方に知っていただきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

〈会長〉

いろいろとご意見ありがとうございます。特に目に見えない、分かりにくい障がいのことについて、もう少し広報するといいいのではというご意見なども出ました。それから、今、椅子がないというのは、私ちょっと気がつきませんでした。これこそクイズになりますね。なぜ、椅子がないのでしょうかとかですね。また参考にしていただければいいと思います。

それから、UDスポットマップについては、この区役所の中でもっといろいろとやっているのではないかとのご指摘だと思います。例えば、エレベーターが満員のときに何か鳴りますが、ディスプレイでも表示されます。あれがないと聞こえない人が最後に入ると「なんで、あなたは降りないのか」と周りから見られ、これはある意味人権問題だと聞いたことがあります。このような設備も実際はあるけど気がついていないだけというところもあるのかもしれない。

事務局の方は、いかがでしょうか。

〈事務局〉

いろいろご意見ありがとうございます。

今回のユニバーサルデザイン展でご紹介したUDスポットマップは、一度ですべてはご紹介できなかったため、今回はこの4つを選ばせていただきました。今後、他に例えば、火災など災害があった際、トイレにあるランプが光って知らせる事例など、他にも多くのユニバーサルデザ

インに配慮されているものがありますので、今いただいたご意見等も含めて、今後、もっと知ってもらうためにどのようにすればいいかということを検討させていただきたいと思います。貴重なご意見、どうもありがとうございます。

〈会長〉

毎年取り組まれているということなので、充実していくといいなと思います。

また、赤ちゃんの駅についてですが、展示パネルのように、これは何のためのものかという説明が区役所のいろいろなところに常設されてもいいのではないかと思いますのでご検討いただければと思います。

引続き、いかがでしょうか。

〈委員〉

1階のUDスポットマップですが、左右対称に片麻痺を想定した手すりなどを右側と左側につけてあって、対称のトイレが作られているというのはとてもいいことだなと感じました。

それから、1階についてですが、地下鉄の表示ですね。地下鉄のホームに行くにはどこに行ったらいいのかという案内がとても分かりづらく、案内板の高さも低いです。デパートなどは本当に分かりやすく、高いところに表示されています。区役所の場合、その場所まで行けば立て看板もありますが、そこまで行かずに、ぱっと見渡したときにどこに行けば地下鉄への連絡通路があるのかというのが分かりにくいです。そこを何とかしていただけたら助かると私は前から思いましたので申し上げました。

〈会長〉

ありがとうございます。私ももう板橋区役所を使うのは慣れたので、あまり看板を見なくても地下鉄の駅に行けるのですが、今言われて気がつきましたが、区役所ができた頃は分からなかったですね。事務局の方にお伺いしますが、こういうことを改善していくということ是可以できるのでしょうか。

〈事務局〉

ご意見ありがとうございます。見やすく分かりやすい表示というものは大切かと思っております。他の案内表示等との兼ね合いもあるのですが、すぐにできるかは分かりませんが、担当の所管している部署にも情報提供させていただき、できるだけよいものになるようにしていきたいと思っております。ご意見どうもありがとうございます。

#### ○区民に対するユニバーサルデザインの普及啓発について

〈会長〉

それでは、次に進みたいと思います。

議題の2つ目、「区民に対するユニバーサルデザインの普及啓発について」を、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

(資料2「区民に対するユニバーサルデザインの普及啓発について」について説明)

〈会長〉

ありがとうございました。非常に盛りだくさんの事業をやっていただきまして、ご苦労さまです。

早速、ご意見やご質問を受けたいと思うのですが、先ほどの越智委員の方から提起がありました、スライド7のユニバーサルデザインとバリアフリーの違いというところについても事務局として見解を示していただいたかと思えます。

その前に、会長代理にお聞きしますが、教育の現場ではどう捉えていらっしゃるでしょうか。

〈会長代理〉

まずは、バリアフリーにしる、ユニバーサルデザインにしる、私自身の見解では、一朝一夕に理解できる概念ではないと思っています。自分自身も人生経験を積み上げていく中で、「ああ、こういうことなのか」という理解が深まっていくものなので、非常に短い時間で教えられているというそのご努力には非常に感謝、称賛を差し上げたいと思っています。

ですが、何よりも大切なのは、まず本人の経験だと思っています。その前提を押さえた上で、まず、スライド7の上のベン図ですが、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、そして到達目標がノーマライゼーションというのがあります。これも日本式の解釈とも思うのですが、実はユニバーサルデザインやバリアフリーは、アメリカの社会の中で発祥して展開してきた概念である一方で、ノーマライゼーションはデンマークを発祥として、北欧諸国で発祥した概念であり、社会的な背景が実は全く違います。私たち日本人は、欧米と言って一括りにしますが、アメリカという社会とヨーロッパの辺境の社会は、全く社会構造が違う中でこうした概念が出てきました。そうしたことを考えると、ここで同じベン図の中にこれらの概念が位置づけられているというのも、実は少し不思議に感じます。

バリアフリーとユニバーサルデザインの概念に戻りますと、最初に登場した、アメリカの社会の中で発祥してきたのはバリアフリーという概念です。これは皆さんご存じだと思いますが、その発祥にあたっては、身体的な障がいがある方が環境の条件によって活動できないという課題を解決するためということで、ハード面が出発点であったという点は否めないと思います。その後、非常に概念は広く捉えられておりまして、

例えば国連の中で障がい者の権利条約を検討していく前段階の議論の中では、制度や人の態度のバリアというものも位置づけられていました。制度がその人の活動を阻害している、あるいは周りの人々の差別的な見解がその人の社会生活を制限しているという意味でも、この「バリア」、それを取り除く「フリー」という言葉は早い時期から位置づけられていたので、やはり先ほど委員の指摘があったハード面だけというのは、ちょっと足りないのではないかなと思います。

そして、そのバリアフリーという概念が展開していく中で、どうやらこの概念は人の区別が前提であるということ、そのことがよくないのではないかということで展開していったのがユニバーサルデザインだと私自身は理解しています。

この2つの言葉の大きな違いが出発点、前提が人を区別しているか、していないかであるということ、そのことは子どもに対するユニバーサルデザインの研修の展開のところでも触れられているので、ご理解いただいているように思います。しかし、そのことだけなのかなと、ハードも、また色々なソフトな諸側面も両方が網羅しているのはこれらの概念であるというのが私の理解です。しかし、この理解というのは人によって、あるいはそれぞれの人、例えばアメリカ人とスウェーデン人とかによっても違います。

そうした観点から、私はバリアフリーやユニバーサルデザインを理解していくのは、とにかく経験が必要だと、自分自身が体験して理解していくというプロセスが必要だと考えています。そういう意味で別の意見に移りますが、UDスクールの試みについて、次世代を担う子供たちにこうした概念を理解してもらおうという意味で、こうした試みというのは非常に重要ですが、なぜか人がいません。ユニバーサルデザインを想定して計画された環境とか物の観察ばかりしていて、そうした配慮が必要になる人との関わり、経験というものを飛ばして物に行ってしまうと思います。それだけでは不十分であり、順番もよく考える必要があるかと思えます。まずは人とコミュニケーションを取って、なぜこうした配慮が必要なのか、なぜこういうデザインが必要なのかと理解したうえで物を見ないと、そういうものが世の中に提案されている本当の意味って伝わらないと私は思います。しかし、そのことをやろうとするには限界があるというのもよく分かります。理解しているので、本当に皆さんのご苦労には頭が上がらないのですが、やはり人と出会ってから物を見るということを検討していただけないかなと思いました。

先ほど少し触れたノーマライゼーションの概念が普及しているスウェーデンでは、例えば小学校は医療的ケア児も同じ小学校の敷地内で、建物は別ですが学んでいます。休み時間になると、そういう子供と、そうではない子供がグラウンドで出会います。もちろん、直接一緒にボール

遊びするなんていうことはできませんが、そうした子供を日常の中で目にしていく中で、本当にどういう環境やどういう道具が必要なのかというこの理解が進んでいくと思います。

せっかくやられている研修なので、ぜひ人と出会う、実際にそうしたユニバーサルデザインの概念が必要なニーズを持っている人と交流するというようなことも、この研修の中に位置づけていただけたらいいなと思いました。

〈会長〉

すごく勉強になりました。ありがとうございました。スライド7のユニバーサルデザインとバリアフリーに関するだけでなく、保育園での事業についてもご意見いただきました。併せて、事務局の方からコメントをいただければと思います。

〈事務局〉

いろいろとありがとうございます。

経験が必要というのは、本当にそのとおりとっております。

区では、保育園や小学校等を含め、医療的ケア児の受入れが少しずつ始まってきており、今後、受入れをさらに増やしていくよう動いていくことになるかと思っています。実際に出会い、経験の必要性を認識したうえで学ぶことも大切かと思っています。

一方で、保育園や小学校等の体制を考慮しながらより良くしていくために、今回のUDスクールだけでなく当事者との関わり・交流も大切であり、それが難しい部分があってもユニバーサルデザインを考えるきっかけが少しずつでも広がっていければと思います。ありがとうございます。

〈会長〉

はい。ありがとうございました。この委員会にも、そのような当事者の方、並びにその団体の方がいらっしゃいますので、ぜひお声をかけて協力していただくのもいいのではないかと考えております。

では、他に皆様方からご意見を伺いたいと思います。

〈委員〉

先ほど会長代理がおっしゃったとおりで、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティは、アメリカやヨーロッパと日本の考え方は微妙なずれがあると思っています。

基本的に国民性や環境が違います。アメリカ、欧米はいろいろな国の方々が集まっている、また、色々な国が隣接しているというような状況ですので、言葉も違う、考え方も違う、自分と違う言葉、自分と違う考え方、そういったものを自然に受け入れられる環境にあると思います。

それと比べると、日本は島国です。言葉もアイヌや琉球の言葉などありますが、ほとんど日本語として統一されています。

それが当たり前。通じない状況になると、どうしたらいいのかわからないというような国民性があります。その国民性を踏まえて、対応が必要なのではないかと思っています。東京都にもそのように私は話しております。

そういう意味で、板橋区の方角として子供視点の進め方は非常にいいと思っています。ですが、だからこそ、どのような内容を伝えるのか、どのような内容を分かってもらえるのか、きちんと協議することが必要だと思っています。

今回の内容を見ても悪くないですが、枠・パッケージと同じで分かりやすさを優先してしまい、分かりにくい人たちが切り離されているのではないかと思います。

いろいろな立場にある、その全てを含めることは難しいということは分かります。分かりますが、SDGsの考え方、誰一人取り残さない社会、これを目指すべきではと思っています。

細かいことはまず置いて、根本的な部分を分かってもらえることが必要なのではと思っています。

例えば、ユニバーサルデザインの例として、シャンプーとリンスの例が挙げられていますが、これはいろいろな視覚障がいのある方に調査を行い、その中でシャンプーとリンスの区別ができないから困るというアンケートを基に開発したものです。一般の見える人からもシャンプーを使って目をつぶってしまう時には分かりやすいというような意見もありました。

また、それと同じように、今はほとんどなくなってしまいましたが、テレホンカードの方角と種類、他のカードとの区別などの話がありました。テレホンカードに切り込みを入れて、入れる方向というのを分かるようにすると一般の方々も「見て分かるから便利だ」というような声が上がりました。

障がいのある方のための工夫が全ての人にとっても便利になる、プラスになるということになりました。そういうところでユニバーサルデザインの取組が始まっていますので、障がいのある方も協力をいたしました。

私たちは、音の情報が分かりませんが、分かると便利だということが分かりますので、改良することができます。でも、聞こえないので気がつきません。不便とも思わないです。

そのような状況があるということも分かってきました。そういうことも含めて、ユニバーサルデザインにしろ、バリアフリーにしろ、障がいのある方のためではなく、全ての人にとっても便利になる。また、子どももそうですよね。子どもが便利になれば、他のの方々にも便利、そういったところをはっきりと表示していった方がいいのではないかと思います。

いますので、その辺りも含めてほしいと思います。

国民性というところで、自分と違うところをなかなかスムーズに受け入れにくい、そのようなところをどうするのか、それは大きな課題になっていると思います。

東京都でも話を始めているところです。例えば思い込みということがあります。

最近、CMにも字幕がつくようになりまして、そういうCMを見る機会も増えていますが、見て「ああ、なるほど」と思ったのが、絵が表示されてきて、その他字幕や文字も出てくる、音声はないと思います。ピンクの色がいいなとか、将来の夢はパイロットというような字幕が出てきて、最後に聞こえていたのは女の人の声ですか、男の人の声ですかというように問いかけてくる、そういうようなCMです。思い込んでいませんかというようなニュアンスですね。その扱い方はとてもいいなと思いました。思い込みをなくすような内容、また自分と違う、通じない場合の工夫、そして何とか伝えるような気持ちを育てる、育む、そのような取組が必要なのではないか、そういうことも含めることで、普段見落とされがちな障がいのある方も含めて、幅広い対応ができるようになるのではないかと考えております。その辺りを含めて検討していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〈会長〉

ありがとうございました。いろいろ聞いていて、ああ、そうかというふうに改めて発見するところも多かったように思います。どうもありがとうございました。

今のご発言について、事務局の方から、特に研修に関してご意見がありましたので、その辺をご回答いただければと思います。

〈事務局〉

ご意見ありがとうございます。

今ご意見いただいたように、思い込みをなくすための工夫や、どのように伝えていくかも含めて、そういった視点は非常に大切なことなので、研修の中でどういうことをやっていくかというのは、いろいろと考えていく必要があるかと思います。ぜひ、今後のご意見をいただきまして、研修の中身についてもさらにブラッシュアップ、いいものにしていきたいと思っていますので、ぜひ、お力を貸していただければと思います。ありがとうございます。

〈会長〉

はい。ありがとうございます。他に、いかがですか。

〈委員〉

図書館の出前講座や保育園での普及活動といった普及啓発は、今後も継続されて実施されるのでしょうか。

〈事務局〉

保育園での活動は続けていきたいと思っています。また、図書館の出前講座に関しては、図書館になるかというのは分かりませんが、ユニバーサルデザインを普及していくために進めていきたいと思っています。

〈委員〉

今年度は保育園3か所で行われましたが、続けられるときは他の保育園、あるいは同じ保育園で継続されるのでしょうか。

〈事務局〉

昨年度までは、当課の職員が各保育園に行ってお UD スクールプレを実施いたしました。今年度のモデレーター研修は、各園の保育士に集ってもらい、当課によるユニバーサルデザインの研修を受けていただきました。研修後、保育士は自分の園それぞれでユニバーサルデザインのことを実践していただいております。その中の2園を当課が見学させていただきました。本協議会でいただいたご意見も含め来年度以降保育士に対してお伝えし、それを踏まえて保育士は自分の園で園児に対してユニバーサルデザインを実践していただく、そういったことを続けていきたいと思っています。

〈委員〉

その場合、例えばその講座の後、各保育園で実施したところから報告書や反応といったことはいただくのですか。それとも、やりっ放しで終わるのでしょうか。

〈事務局〉

現在、報告書を出してほしいという求めはしておりませんが、実施に対するご意見などをいただくこともあるので、そういったところは生かしていきたいと思っております。報告書となると現場の負担などを考慮する必要がありますので、どこまで行ったらいいかということも研究していきたいと思っています。

〈委員〉

ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございます。委員のやり取りを聞いていて思いましたが、小学校でのユニバーサルデザイン教育の取組というのは10年、20年ぐらい前から蓄積している一方、就学前の子どもにやるという事例は、私は知らないのですよね。そういう意味で画期的な事業だと思っておりますので、現場のフィードバックというのはきちんとやって、この会で報告していただくのもいいですが、良かった点、悪かった点なども世の中に公表していくのがいいのではないかと考えております。

保育士さんたちは忙しいですが、ヒアリングをするなど、いろいろな

方法があると思いますので、ぜひそのノウハウ、実施した内容を次に、あるいは他の地域で生かせるようなものを作っていただくといいなと思いました。どうもありがとうございました。

はい。事務局からどうぞ。

〈事務局〉

はい、ありがとうございます。今回実施にあたって、保育園児にはまず楽しく学んでもらうことを前提にやっております。各園でそれぞれ工夫を凝らしてやっていただいているので、良い取組は各園にも広げていきたいですし、まだ調整中ではありますが、来年度もモデレーター研修などといった取組も検討しているところですので、その際、やったとき実際どうだったのというところも吸い上げながら、より良いものにしていければと思っています。ご意見ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございました。前年度に実施した保育士さんにご講義をしていただくというのも関係者の皆さんがスキルアップしていくのにすごくいいのではないかと、今のやり取りを聞いて思いました。

〈委員〉

スライド12、13にある色覚障がいのある方に対する印刷文字の使い方、あるいは背景色の使い方についてですが、ここで言われたところを留意した上で、色を頼り過ぎずと、ここまではなるほど納得なのですが、その後の推奨として、網掛け文字というのが出ています。視覚障がいのある方の中で弱視の人は網掛け文字というのはどうも読みにくいからやめてくれと言っていますが、色覚障がいのある方は、その網掛け文字というのが注意を喚起するのに役立つものなののでしょうか。少し疑問なのですが、この辺りは、当事者から確認されての推奨なののでしょうか。

〈会長〉

いかがでしょうか。

〈事務局〉

このスライドは、直接、色覚障がいのある方に確認したというわけではなく、いろいろな関係資料から持ってきているところでございます。

人によっては、網掛けの方が見にくい方もいらっしゃるかもしれないので、例えば黒の背景に文字を白抜きとかにした方が見やすい方もいらっしゃるという話は聞いてはいるところでもあります。必ず網掛けにした方が見やすいかどうかというのは、その方によって違うこともあるかと思えます。

このスライドは、ユニバーサルデザインのガイドラインから引用しておりますが、今後色の組合せや網掛けの使い方などについていろいろな方へご意見も伺えるときがあれば伺いたいと思えます。

〈委員〉

分かりました。網掛け文字は、晴眼者の方にとって注意喚起するのに役立つというのはよく分かりますが、おそらく色覚障がいのある方や視力が低い人にとっては網掛け文字はむしろ避けてもらいたいもので、推奨の範囲ではなくて、むしろ避けていただきたいということではないかなとは思いますが、そういう観点での検証をお願いいたします。

〈事務局〉

ありがとうございます。本スライドでの網掛けの使い方に関しては、図の方に網掛けを使用してメリハリをつけているということをお示ししているところではありますが、このことについても、またご意見をいただければありがたいので、ぜひそういった機会があれば設けていきたいと思っております。ありがとうございます。

〈委員〉

細かいことを申し上げましたが、よろしくをお願いいたします。

〈会長〉

ありがとうございます。ちょっと誤解があるといけないので両者に確認をしたいのですが、委員がおっしゃったのは文字の上にかぶせて網掛けをするというのが良くないのではないかという、そういうことですね。

〈委員〉

そうです。はい。

〈会長〉

実は、ここのスライドに出ているのは、円グラフを色ではなく、網掛けの模様で分けていることを推奨している内容になりますが、それについては、何か伺ったことはありますか。

〈委員〉

いや、その図については特に印象に残っていませんが、文字に関して申し上げました。

〈会長〉

そうですか。

〈委員〉

説明を聞くと、網かけ文字がいいというように受け取れたものですから、その点で少し心配事を申し上げた次第です。

〈会長〉

ありがとうございます。ごもっともかと思えます。

そのような誤解がないように、この資料も例えば文字に網掛けが被さっているようなものは駄目だよといった記載があると、より良いのではと思います。こういうのは、表現が難しいですね。

〈事務局〉

ありがとうございます。事務局小田です。

今、お話を伺って、文字にこういう装飾では見にくいということも示せばいいと思いました。

図ではこうした方が見やすく、こういうときは見にくい、文字ではこうした方が見やすく、こういうときは見にくい、というように資料を作るとより分かりやすくなると思いました。ありがとうございます。

〈委員〉

お願いいたします。

〈会長〉

委員に伺いたいのですが、事務局の方の説明によると道案内でも時計の文字盤を使うというのがありました。これはあるのですか。

〈委員〉

あります。自分の前面を文字盤のようにイメージして。

〈会長〉

12時にして。

〈委員〉

ええ。6時が自分の位置として、前方を指すのは12時ですね。

〈会長〉

なるほど。

〈委員〉

右何度というのは言いにくいでしょうから2時の方向、左45度でしたら9時の方向、そういう言い方もあります。

先ほどの例にありましたように、お弁当等のおかずの位置が一番ポピュラーに使いますが、道の方角を表すのにも使えます。

〈会長〉

そうですか。ありがとうございました。

他にございますか。はい、それではありがとうございました。

では、全体を通して何かご意見・ご質問、あるいは言い忘れたことがあればお願いします。

〈会長代理〉

今後のユニバーサルデザイン展の内容や研修に何かご意見をというのがありました。元旦に大きな地震がありました。熊本の時もそうでしたが、やはりご高齢の方や障がいのある方の避難はすごく大変で、そういう方々が多く犠牲となっているという印象があります。

一方で、例えば車いすの方でも利用できるような仮設トイレ、ユニバーサルデザインの観点で避難や災害生活が送れるような商品、そういった視点の考え方も出てきています。東京で地震などが起きると非常に大変だと思いますので、防災や災害をテーマに、少し普及啓発を図られてはいかがかなということ意見をとして挙げさせていただきます。可能な

範囲でご検討ください。

〈委員〉

私は、年末年始、金沢に旅行に行っており、地震に遭遇いたしました。

障がいの立場でいろいろな情報がないなど、細かいところでとても苦労いたしました。

例えばホテル、私は8階に泊まっていたのですが、エレベーターが二日間止まってしまい、使えませんでした。聞こえる人であれば、部屋の電話でエレベーターはいつ頃復旧できますかとか尋ねることができますが、私はできませんので確認するために8階から1階まで降りて行って、筆談をして、また戻ってということを繰り返しました。また、テレビでも「津波、逃げて」と繰り返し放送して、文字も出ていました。見て、危機感があっていいのですが、後で聞いた話では音声の方は「津波、高いところに逃げて」と言っていたらしいですね。でも、表示された文字は、「津波、逃げて」だけだったのです。どう逃げたらよいか、聞こえない立場としては分かりませんでした。

そういう問題を経験しましたので、改めて聴覚障がいの立場でのいろいろな問題、災害のときの問題を検証する必要があるのかなと考えていましたので、よろしく願いいたします。

〈会長〉

ありがとうございます。今、お2人から非常に重要なことが提起されました。区としては、こういうことについて常に取り組んでいると思えますが、今後また考えを新たにして、情報をバージョンアップしていかなければならないのではないかと、そういうご意見だと受け止めました。

〈事務局〉

元日に起こった地震は、まだ復旧のめども立っていない状況ですし、こういうことが起きたとき、今、委員がおっしゃられたように、実際に困っているという具体例は、どんどん声が出てくるかと思えます。ぜひ、そういったことを教えていただきまして、防災部門の方とも連携しながらどうすれば伝わるのか、どうすれば安心を確保できるのかというのを考えることは非常に大切なところだと思っています。

ユニバーサルデザイン展での普及啓発も含めて、防災対策はしっかり考えていかなければならないと思っております。また、どういったところを注意した方がいいのかも含めて、ご意見等をいただくと非常に助かりますので、今後もお意見をお寄せいただければと思います。ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございます。まさにこの委員会から出るべき意見だったと

思います。どうもありがとうございました。事務局の方でも受け止めていただきまして、今ご発言があったように、関係部署と連携を取って推進していただければと思います。よろしくをお願いします。

他にございませんでしょうか。

では、ありがとうございました。本日の議題は以上です。

### 3 その他

(特になし)

### 4 閉会

〈会長〉

では、事務局から何かございますか。

〈事務局〉

本日は、本当に長時間にわたり、いろいろなご意見をいただきまして本当にありがとうございました。

令和4年5月1日より、第11期板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会の委員として委嘱させていただきました皆様も、一緒にやらせていただきありがとうございました。

任期の方は今年4月30日までとなっておりますが、期間中の会議の開催は本日が最後となります。会長の八藤後先生をはじめ、委員の皆様には、2年間にわたり大変多くのご助言やご指摘、ご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。特に、ユニバーサルデザインのガイドラインの改定にあたりましては、3回にわたってご審議をいただき、新たな配慮事項、ニーズの変化などに即したガイドラインへ更新することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

引き続き、板橋区のユニバーサルデザインの推進に、一層、力添えをいただければと思います。委員の皆様におかれましては、ますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

〈会長〉

私からもご挨拶させていただきます。

どうもありがとうございます。今、事務局からもお話がありましたように、この中で委員が入れ替わることもあるかと思いますが、委員でなくなっても、板橋区の状況についてはよく見ていただけるとありがたいです。そして、ホームページなどからご意見などをお寄せしたりすることができるようですので、委員ではなくなったとしても、どうぞこの経験を生かしてこれからも良い板橋区にするためにご意見をいただければと思います。では、本当にありがとうございました。

それでは、これにて令和5年度第2回板橋区ユニバーサルデザイン推

	進協議会を閉会といたします。皆様、ありがとうございました。
<b>所管課</b>	福祉部障がい政策課ユニバーサルデザイン推進係 (電話：3579-2252)